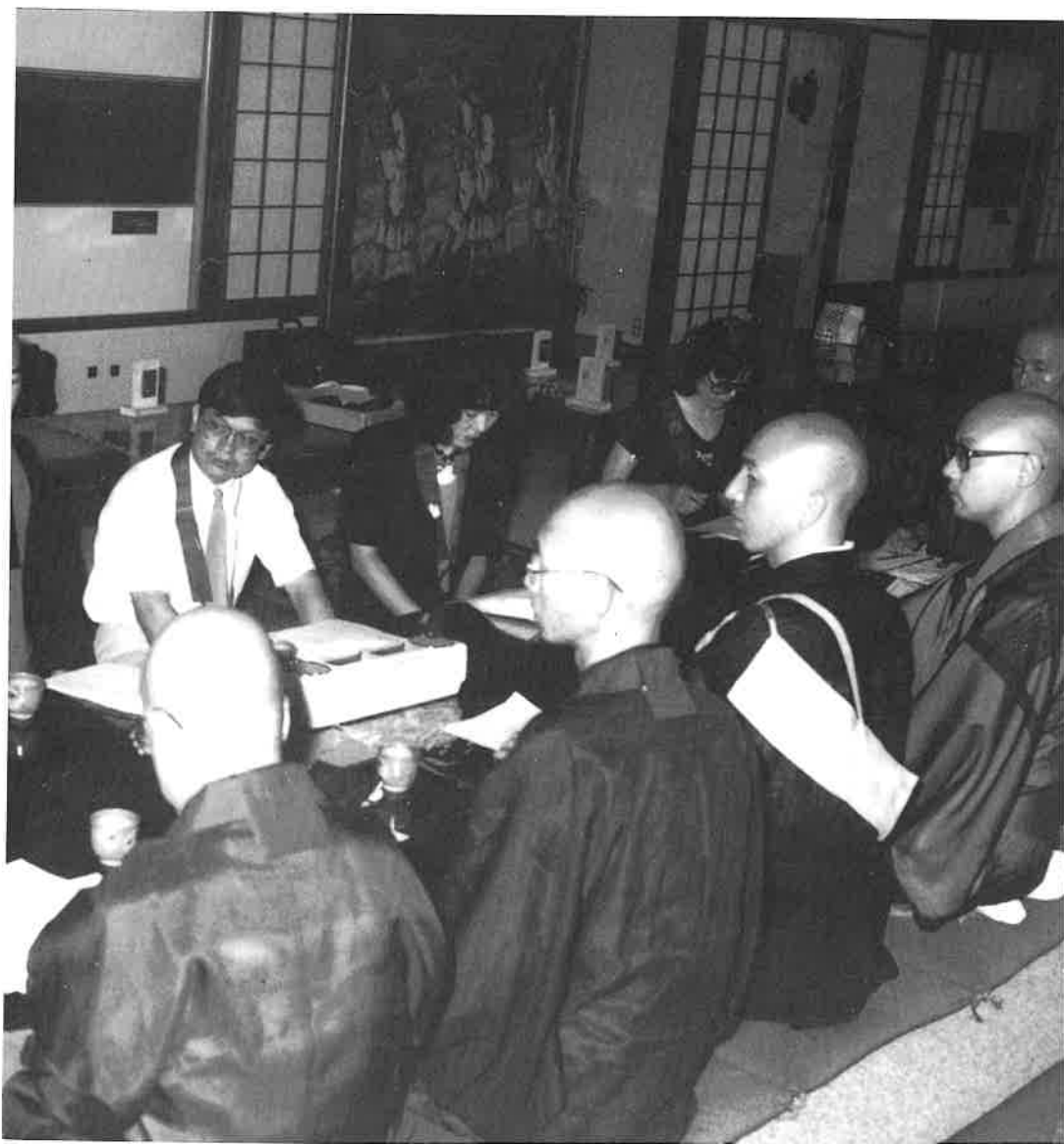


海外留学僧第2回総会

7月28日



出席者

黒田 武志師 善光寺海外留学僧派遣育英会理事長
佐藤 俊明師 善光寺海外留学僧派遣育英会常任理事
田中 智誠師(タイ、ワット・パクナム)
河内 義宣師(アメリカ禅センター)
安井 隆同師(インド、カルカッタ大学在学中)
中野 良教師(スリランカ、ケラニア大学留学中)
季 幼 麟氏(中国より駒沢大学留学中)
早田 啓子氏(インド、カルカッタ大学留学予定)
司会 桐元 大智師



佐藤(常任理事) 本日はお暑いところを、第二回海外留学僧定例総会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

善光寺海外留学僧派遣育英会は、一昨々年の一月十五日に発足いたしました。そして一昨年

の春には、黄檗宗の田中君、浄土宗の梅田君がタイへ。そして秋にはアメリカの受け入れ準備のために、国安君が派遣されました。

昨年の春は、インドのカルカッタ大学へ安井君、アメリカ禅センターへは河内君、中野君は

スリランカへそれぞれ派遣されました。

そして去年の八月二十八日、たまたま帰国していた安井君と国安君を迎えて、第一回の総会が持たれました。今年は、岩波君と島崎君が、四月にアメリカに向けて出発しました。追って五月には、浦田君がタイに出発いたしました。

このように、現在アメリカに二名、タイ・スリランカ・インドにそれぞれ一名が派遣されてお



善光寺方丈

りませんが、加えて、中国の李君が駒沢大学に留学、早田さんはインドのカルカッタ大学に留学の予定であります。というわけで、今回は大変大ぜいの方にお集まりいただいております。ありがとうございます。

今日は、留学を終えられた方々に現地での感想なり、あるいは問題点等を、忌憚なくお話しただくと共に、これから留学なさる方々に、いろいろご要望なりをお伺いしたいと思います。

帰国留学僧の現況報告

桐元 善光寺院代の桐元でございます。本日の司会をつとめさせていただきます。早速ですが議題に沿ってお話をすすめてまいりたいと思います。まず最初に、すでに留学を終えられた方々の現地での問題点、又、今後に生かすことのできる体験やご要望なりがありましたらお話をうけたまわりたいと思います。

では一言理事長よりご挨拶をいただきます。

方丈（理事長）

皆様ご遠方からご苦勞さまでした。

この度の例会は、昨年より一カ月早くになりましたが、その理由は、すでに留学を終えられた田中君が、来月、東西靈性交流会で、ヨーロッパに行かれることになりました、例会が早まりましたことをご報告いたします。

みな様もご存知のように、この育英会の資金は、檀家の方々ははじめとする有縁無縁の方々が、一食に一口ご飯を減らしていただいて喜捨していただきたいとお願いした結果お預りしている尊いお金であります。この方々のご恩に報いるためにも、皆様には、命がけで勉強し精進してほしいと願ってやみません。

田中（タイ・ワットパクナム） それでは東西靈性交流会について簡単に説明させていただきます。

これは今から十二年前からヨーロッパのキリスト教とくにカトリックと日本の仏教とが交流しようという趣旨ではじめられたもので、今回は第三回目の派遣ということであります。曹洞宗から十一名、臨済宗から十四名、黄檗から二名、合計二十七名であります。これは花園大学にあります禅文化研究所が事務局になっておりまして、今回は、禅三派、ヨーロッパのカトリックの司祭を養成する修道院とが個別的に交流しようというその端緒になるものと思われま

す。

日本では、比叡山開創千二百年を記念した宗教サミットが開かれています。国際的な交流ということになりますと、ヨーロッパの修道院などにおいては、伝統的な慣習その他の問題で、実際に門戸を開けるとなると様々な不都合がでてくるといわれていますが、多くの協力者の支援でその障害をふまえて、とにかく最初の目的



田中智誠師

を全うしようということど実現した今回の派遣
であると聞いております。

八月二十一日にオランダに参りまして、そこ
からヨーロッパ各地の修道院に派遣され、現地
の修道士の方々と共に体験するという予定にな
っております。

九月にはイタリアでシンポジウム、合同接心、
ローマ法王との謁見ののち帰国ということにな

りますが、四年後には、ヨーロッパから修道士
の方々を招いて、禅道場で共に修行するという
ような構想がたてられております。

ヨーロッパのカトリックが、こうした積極的
な動きをみせていることに対して、日本の仏教
界から、どうもカトリックは意図的に禅を体制
のために求めようとしているのではないかとい
うような意見もございますが、これに先だつて
六月に、東京で、国連大学主催の国際宗教セミ
ナーがございました、様々な宗教界の代表の
方々が集つて、いろいろの宗教社会における発
表がなされました。

出席者のおひとりキタウ神父は、ヨーロッパ
の宗教における宗教体験に基づく理性中心の宗
教は、社会的関心に移行しやすいこと、日本宗
教の心身一如的理解が、宇宙の一体感（エコロ
ジー）に対して、思想的貢献を成すと同時に、
社会的関心を希薄化するため、両者が相互に学

ぶことの大切さを提唱しておられました。

ヨーロッパの修道士の方々と日本の禅宗の僧とが協力して何かできることはないか。又、日本においては、国際的環境の中で共同体験をするという点が少ない現状でもありますし、私なりの抱負を持って、ヨーロッパを見聞してまいります。

河内 (アメリカ禅センター)



河内義宜師

アメリカという国はあらゆる人種が集って、それぞれの文化を背負って勝手に生きている社会といえるかもしれません。現在アメリカの文化の、ひとつの曲がり角ともいえましようが、その人たちが、東洋の禅というものに非常に興味をもって、今すでに、アメリカには二〇〇位の禅センターがあるといわれています。その中でも日本の禅が最も脚光を浴びております。

アメリカに行つてびっくりしたのは、禅センターに来る老若男女みなさんが、サンフランシスコの禅センターの礎えを作つた鈴木俊隆しゅん師の本を読んでいるんです。

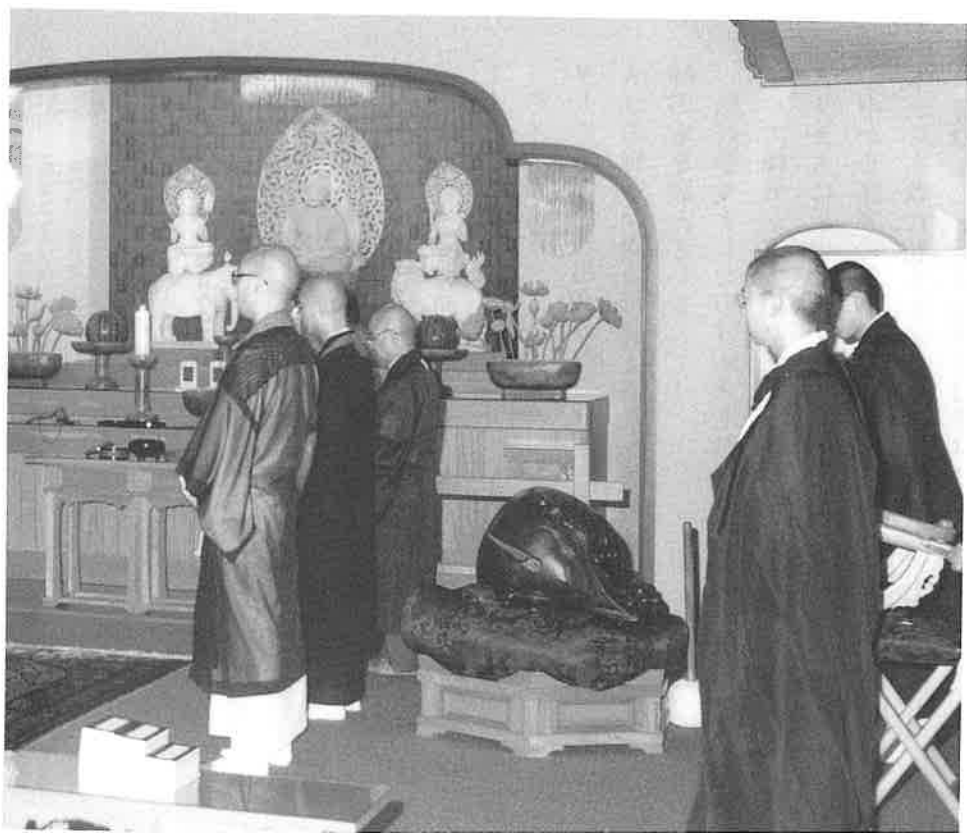
私が参りましたのは前角老師の系統のロサンゼルス禅センターでしたが、そこではすでにアメリカ人に正当な法が伝えられて、アメリカ人の中から師家の養成がなされているほどで、日本から布教に赴くという段階は過ぎた、むしろ本筋のものを学ぶためにはアメリカに行つた方

がいいのではないかと思うほどであります。

ただ、文化、慣習などの基本が違いますから、一見すると変な感じもいたしますが、アメリカの社会の中でどう咀嚼されていくかが興味のあるところであります。

グラスマン先生という方はユダヤ人ですが、おそらくユダヤ人という文化を負ってこの在り方があるのかと思うのですが、実におもしろい生き方をされております。一月一日〜十日までセミナーがありまして、求道心というテーマで討論会がもたれたのですがその中で毎日講師をお呼びするのです。カトリック、プロテスタント、ユダヤ教、上座部仏教の学者・大乘仏教の学者、曹洞禅の僧と、多彩な顔ぶれなのであります。

グラスマン先生のお考えは、民族・宗教を問わず人間の仏心に変わりはなく、従ってどんな宗教でも理解できないはずはない、という発想



なのです。集まってくる人たちも、それぞれの宗教を持ちながら坐禅をしているという方々が多くいます。日本の場合は純粋に、何が一体悟りだ、と核心に切り込んでくる坐禅のしかたをしている。

こうしてお互いに一緒に修行することは大変有意義なことだと思いますから、どんどんアメリカに行ってほしい。ただ、行くからには、せめて、初歩的な修行を終えていかないと、むしろでは、日本を本家だと思っていますからね。日本の文化という面を心得ていかないといけないんじゃないかと思います。

中野（スリランカ、ケラニア大学留学中）

その国独特の文化の中に入って生活し勉強するということは、ホテルに泊って旅行するのとは違うわけです。例えばトイレ、形が違えば使い方もちがう。それが自然に使えるようになってはじめて、何かが見えてくるような気がする





安井隆 同師

んですね。四年間スリランカにおいて、ようやくそんな事がわかりかけてきました。

スリランカというのをご存知のように、南方上座部の本家的存在であります。お国柄、早くから仏教が英語での理解がされていた国です。しかし、日本仏教、禅仏教という点ではまだまだ理解が浅いように思います。アジアの人たち、いや世界の人たちが今、日本に目を向けていま

す。その中で我々はどのようにアピールしていけばいいのか。

スリランカの人たちは私に「日本仏教とはどういうものか、禅仏教とはどういうものか、禅の実践はどのようにするのか」と、様々な人が、様々な場所で質問してきます。

こうしたテーマを今後更に追求していきたいと思えます。

安井（インドカルカタ大学在学中）

お釈迦さまのおられたインドの大地を歩くことがインドでの当初の目的でしたが、カルカタ大学にご縁があり、この一年半ほどは大学での勉強に費しています。

あの大きな大地を歩けば、何か大きなものが見えるかもしれないと思って歩いても、見えてくるのはいつも、一番ちっぽけな自分です。のびのびと歩きながら、自分が対話する相手は何ともちっぽけな自分なのです。いつもぶつかる

のは自分でした。そこで、大学の卒論も「原始仏教における我」というテーマで書かせていただきます。

先般、口頭試問と公開セミナーがありました、大学の教授が十三名ほどと学生、私がお世話になつている大菩提会の方々など三十五名ほどが出席してくださつて、一時間半発表させていただきました。

たまたま雨期で、大雨が降つてまして、電気の設備もないし、暗いパーリー学部の破れたガラス窓から風は入ってくるわ、雨は入ってくるわ、慣れない英語で目はチラつくわで、形を整えるという事はかなり大変なものだと思ひました。勉強すればするほどわからない事がふえていきます。世の中で誰が一番の敵かというところ、自分ほどの敵はいないということに気がつきます。又、自分ほどの味方もないわけです。

どうにもならないちっぽけな自分あればこ

そ、ひとりの出家者として求道する心を持ち続けることができるのかとも考えます。わからないことはわからないままに宗教の信仰によつて、みえないもの、不思議なものにただぬかづき、お念仏を唱えさせていただいている現在です。

桐元 李さんは良寛さんの研究をなさつておいでとのことですが、良寛さんに興味を持たれた



桐元 大智師

きつかけなどお聞かせいただけますか？

李（中国より駒沢大学留学中）

私は三年前に上海からまいりまして、日本に来るまでは良寛さんをほとんど知らなかったと言つてもいいくらいでした。

私は、上海科学技術大学に勤めておりましたが、そこからお金をいただいて、日本へ留学することができました。ところが、予定されていた一年間では何もわからないと気がついて、大学にお願いして、学部からもう一度やりなおそうと思つたのです。二年目からは国からの仕送りは一切なくなりましたので、アルバイトでつないできました。

その頃、飯田先生にお会いしまして、先生の良寛さんの講義を受けて、はじめて良寛さんという方を知ることができました。

先生からたくさん大切な本をいただいて、勉強していくうちに、中国では誰ひとり知られて

いない良寛さんを、是非紹介したいと思う気持ちがのつてきました。

中国は今、一生けん命お金を作ることに必死で、精神的な面では何か欠けていると思えてなりません。もっと正しい人生の生き方をしなくてはいけないと思います。その為には良寛さんのような正しい生き方を、中国の人に紹介してあげたいのです。

飯田先生のおかげで、黒田方丈さまにお会いすることができ、思いがけなく奨学金を頂くことができて、感謝の気持ちで一杯です。こうして生活が落ち着き良寛さんの勉強が精一杯できることの感謝を、もっともっと勉強して、日本にいる間にレポートなり本なりを、中国に書き送り、良寛さんを紹介していきたいと思つております。そのためにはまだまだ勉強不足で力がありません。一生けん命頑張りたいと思えます。皆さんよろしくお願ひします。

桐元 今後とも是非ご精進くださるよう、頑張
ってください。

早田 (インドカルカッタ大学留学予定)

私は昭和女子大に籍を置いて、仏教思想・美



早田 啓子女史

術史・近代文学など、かなり広範囲な科目を教
えています。

大学院では仏教を専攻しました。もともと、
美術が好きでどちらにしようかと思っただけ

でしたが、仏教に対する私の興味というのは、
日本の近代史の流れの中で、高度成長のひずみ
というか、そのひずみに、私の青春時代はモロ
にぶちあたったという感慨があります。生きて
いて、その居心地の悪さ、大学では何も学ぶこ
とができないと、そう思いました。卒業しても、
自分の目で見、耳で聴き、手に触れるもの、そ
んな自分の感性を取り戻したいと思いました。
言葉だけがひとり歩きしているような日本の物
質文明の中で、直観的に不安を覚えたのです。
そうしたことが、私を仏教に向かわしたのでは
ないかと思うのです。

私は、自分における修行は、勉強すること、
絵を描くこと両方をふくめて、修行の場だと思
っています。

今回、派遣させていただくことになり、イン
ドの初期の仏教美術をテーマにカルカッタ大学
で学びたいと思っています。

世界における禅のとらえ方

桐本 今までも出てまいりましたが、世界における禅のとらえ方には、各国で様々なギャップがあると思うのですが、そのことについてご意見を伺かせただけですか。

佐藤 先ほど伺いますと、アメリカの禅というのは、中国の禅とか初期の日本の叢林のように、経営の基盤というのは、修行する人たちの作務に負うところが大きいんじゃないでしょうか。

河内 ご存知のようにアメリカには日本のような檀家制度はありませんから、数ある禅センターにおいて、それぞれ運営の仕方が違います。

私が最初に行ったお寺は、マンハッタンから二、三時間も山の中に入ったところにありましたが、全体が二十四万坪もあるんです。建物はかつて教会だったのを使っているんですが、い

くつもコテージがあつてそれを芸術家たちに貸しているんです。彼らはそこに住んで芸術活動をしながら坐禅をするんですが、そんな収入ですとか、毎週末には、お茶、お華、空手など、日本文化の研修をして人を集めて、その会費を収入とします。毎月一回の接心の参加費などもかなり高額なものです。

グラスマン先生のところでは、ベーカリーを経営しています。ケーキやパンやクッキーを作るんです。他には、住んでいる人たちやメンバーから会費をいただいています。他にもグリーンガルス農場というのは農場経営による収益をあてております。

また、アメリカにはハウスレスという家のない人たちが大ぜいいて社会的問題になっているんですが、グラスマン先生はこうした人たちを集めて仕事を教え、社会に復帰させる仕事にもけん命です。教会や他宗の人たちと、宗派の別



佐藤俊明 常任理事

なく協力し合って具体的に実践しているわけ
です。中国叢林においては作務が非常に大切で
すが、グラスマン先生は実にそれを一歩すすめて、
社会の中で働いてこそ意味があるとされて、ど
んどん世の中に出ていっておられますね。

アメリカという国においては、そうした実践
を具体化しないと受け入れられないということ
は現実です。

佐藤 アメリカと対照的なのはタイだと思う
んですが。

田中 タイでの瞑想のあり方というのは、極く
最近、信者さんの為に本が出はじめてきていま
す。瞑想道場というのはいくつか出来ておりま
す。

方丈 それぞれにご苦勞の中で修行していただ
いてるわけですが、わからなくなればなるほど
情熱をもって事にあたっていただきたい。李君
は大変日本語がおじょうずです。私は言葉が不
得手でたいへん苦勞しました。言葉の違う国で
生活し勉強するというのは並たいていではあり
ません。それを乗りこえて、どうか命がけで修
行してほしい。

みなで力をあわせれば何事かできます。未
来の理想に向かって精進することが宗教家の使
命であろうと思います。

佐藤 方丈さまのねらいは、宗祖を通して釈尊



李幼麟氏

の教えにかえるということです。

日本はいわば部派仏教です。インドに大乘仏教が興る直前の部派仏教の如き末期症状にあるのが、今日の日本の仏教教団の姿じゃないですか。

河内君の話から、アメリカでは日本のように布施によって生活するのではないといわれましたが、日本には幸か不幸か檀家制度があつてそ

の布施によって生活しているわけです。

先ごろ「地獄の話」という本を書きましたが、その作業中に、布施に支えられて空しくすごしている坊さんが阿鼻地獄に落ちるということを教えられました。そんなことにならないように私たちは努力しなければなりません。今日の日本仏教を救うには、内部でいくらかがいてもいいアイデアは浮かびません。そうした時にみなさんが各国に向かわれているような知識を得、経験されて、それらを結集してはじめて、現在の日本仏教に、新しい息吹きを与えてくれるのではないかと期待しております。ですから、たとえ日本の仏教がいかにもじめな状態にあらうとも、理想を持って進むしかないと思います。

トルストイが言っております、理想というものは実現できるものじゃない、実現した時は理想ではなく現実である。しかし実現の要求を持



中野良教師

たないのも理想ではない。理想とは常に現実の一步前にあつて、現実を浄化してゆく力なのである。しかもその力が大であればあるほど現実はずいぶん離れてしまう。ここに理想を追う者の苦悩がある。こんなことを言っておりました。仏教における涅槃と同じことです。固定したものではなく不住涅槃だと、常に進歩していくことでもあります。

これからも留学僧はふえていきます。その方々と力を合わせて、この日本を救うべき理想に向かつて、お互いに精進していこうではありませんか。

今日は本当にありがとうございました。